

第1章 芦別市子どもの読書活動推進計画の策定にあたって

第1節 計画の位置付けと期間

1 計画の位置付け

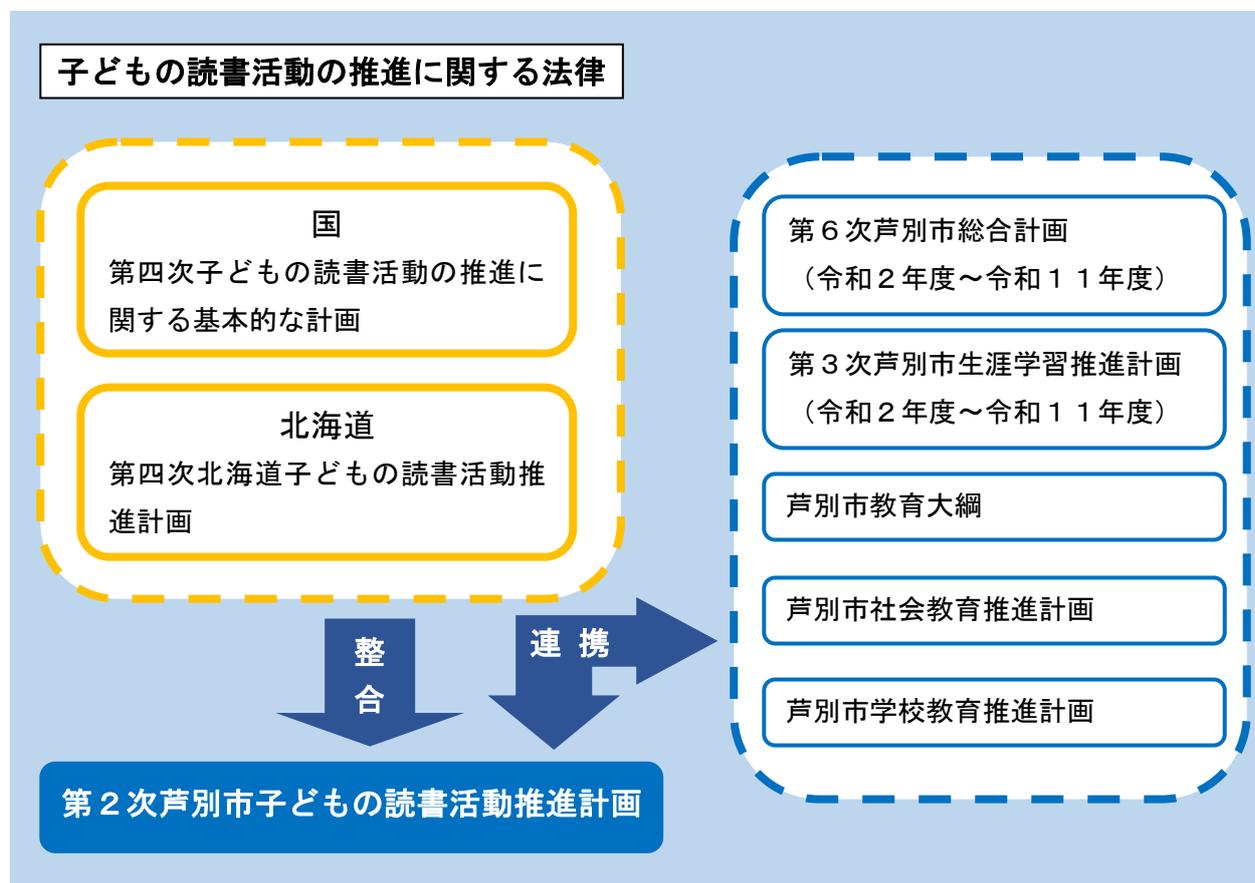
国は、子どもの読書活動は、社会全体で積極的にそのための環境の整備を推進していくことが重要として、平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」（以下「推進法」という。）が制定され、平成14年には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、現在は第四次計画に基づき推進しています。

これらを受けて、北海道においても平成15年に「北海道子どもの読書推進計画」を策定し、現在は第四次計画に基づき、北海道のすべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、環境づくりを進めています。

本市においても、推進法に基づき、国・道の計画や市民アンケートの結果を踏まえ、すべての子どもが豊かな読書体験を通してすこやかに成長していけるよう、子どもの読書活動を総合的かつ計画的に推進するため「第2次芦別市子どもの読書活動推進計画」を策定します。

2 計画の期間

本計画は、令和5年度から令和9年度までの5年間とし、国や北海道の計画を踏まえ、この計画を改定する必要性が生じた場合は、適宜見直しを行うものとします。



3 計画の内容

読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」であることから、子どもたちが本に親しみ、読書を楽しむ習慣を身に付けることができるよう、家庭、学校、図書館、地域及び関係機関が協力しあい、子ども読書活動を推進していくことが重要です。

また、新しい学習指導要領においては、言語能力の育成を図るために、各学校において、必要な言語環境を整えるとともに、児童生徒の自発的な読書活動を充実させることが求められています。さらに、幼稚園教育要領や保育所保育指針では、引き続き、幼児が絵本や物語等に親しむこととしており、それらを通じて想像したり、表現したりすることを楽しむことが定められています。

このことから、第2次子どもの読書活動推進計画は、前計画を踏襲しながら、基本方針に基づき、子どもたちが読書の楽しさを知り、自ら進んで読書に親しむことができる環境をつくるため、さらに、推進目標、推進項目及び具体的な取組の指針を定め、関係機関と連携し子どもの読書活動を推進します。

* 子どもの読書活動におけるSDGs（持続可能な開発目標）の推進

本計画においては、SDGs「目標4：質の高い教育をみんなに」の達成に貢献することを目指し子ども読書活動の推進に取り組めます。

SDGs（Sustainable Development Goals の略）とは、2015年（平成27年）に国連サミットで採択され「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際目標です。「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓い、2030年（令和12年）までに持続可能でより良い世界を実現するための17の目標です。



第2節 これまでの取組の現状と課題

1 進捗状況及び現状と課題

(1) 目標指標の進捗状況（※令和4年度と平成28年度の調査結果から）

第2次子どもの読書活動推進計画の策定にあたり、前計画に引き継ぎ児童生徒を対象にこれまでの取組から見えてくる現状を把握するため、アンケートを実施しました。

- ◆ 実施期間 令和4年8月24日～9月14日
- ◆ 調査対象者 保育園児及び認定こども園児の保護者、小学校3年生及び5年生の保護者、小学校3年生及び5年生、中学校2年生、高校2年生

◆ 調査方法

ア 小学校3年生及び5年生の児童は、紙媒体にて回答。

イ ア以外は、紙媒体及びLogoフォームのいずれかの方法を選択のうえ回答。

◆ 回答率 （単位：枚、％）

配付先	配付枚数	回答数	回答率
保育園児及び認定こども園児の保護者	190	104	54.7
小学校3年生及び5年生の保護者	111	78	70.3
小学校3年生及び5年生	111	97	87.4
中学校2年生	57	44	77.2
高校2年生	56	49	87.5
合計	525	372	70.9

	指標	指標の概要	進捗状況		
			H28	R4	目標
①	読書が好きな児童生徒の割合	「読書が好きですか」の設問に対して「はい」と回答した児童・生徒の割合	小 59% 中 67% 高 51%	小 38% 中 68% 高 51%	小 60% 中 70% 高 60%
②	1ヶ月の読書量	「1ヶ月にどのくらい本を読みますか」の設問に対して最も多い冊数	小 3~5冊 中 2冊 高 1冊	小 3~5冊 中 1冊 高 0冊	小 10冊以上 中 5冊以上 高 3冊以上
③	読みたい本はどのようにしているか	「読みたい本がある時はどうしていますか」の設問に対して回答の多い順	小 図書館 中 買う 高 買う	小 図書館 中 買う 高 買う	/
④	学校図書館の利用について	「学校図書館は良く・たまに利用している」と回答した児童・生徒の割合	小 54% 中 79% 高 22%	小 26% 中 57% 高 18%	小 50% 中 70% 高 30%
⑤	図書館の利用について	「図書館は良く・たまに利用している」と回答した児童・生徒の割合	小 41% 中 66% 高 32%	小 40% 中 52% 高 22%	小 50% 中 60% 高 30%

	指標	指標の概要	進捗状況		
			H28	R4	目標
⑥	図書館の利用目的	「図書館に行くのはどんな時ですか」の設問に対して回答の多い順	小 本を借りる 中 本を借りる 高 勉強	小 本を借りる 中 勉強 高 本を借りる	
⑦	本を読んで良かった事	「本を読んで良かったと思う事がありますか」の回答理由の多い順（中・高校生のみ）	中 楽しくなった。面白くなった。新しい知識が増えた。感動した。 高 面白い。知識が増えた。漢字が読めるようになった。		
⑧	本が嫌いな理由	「本が嫌いなのは何故ですか」の設問に対して回答の多い順	小 興味がない 中 時間がない 高 興味がない	小 興味がない 中 興味がない 高 読みたい本が見つからない	

(2) 現 状（※令和4年度の調査結果より）

■ 幼児の保護者については、「読み聞かせ※1」を実施している家庭は前計画と対比し14%減少しているが、家に子どもの本を置いている冊数は増加しているなど、何時でも本が読める環境にあることが伺えます。また、共稼ぎの家庭が24%増加しており、読み聞かせの時間がないとの回答が多かったことから、関係機関と連携し、読書の楽しさを知る機会を増やすことが必要です。

■ 小学生の保護者については、1年間の読書量が大幅に増加しており、また、子どもの読み聞かせについては、0歳から実施する方が最も多く、また、6歳まで読み聞かせを行っていたとの回答が最も多い結果となっています。さらに、子どもの図書館利用者カードについては91%が所有しているなど、読書習慣を形成し、親の興味や関心が伺えます。

■ 小学生については、本が「好き」が21%減少し、「嫌い」が38%増加した結果となっています。一方で、1ヶ月の読書量は11冊以上が17%増加し、本を読む子と読まない子に分かれた結果となっています。また、「図書館を利用しない」が24%増加し、「学校図書館を利用しない」が34%増加しています。図書館の利用は友達と行く、調べものを目的とした活用が最も多く、学校図書館の利用は年間利用回数が4～5回が最も多い結果となっています。

※1 読み聞かせ：子どもたちに本や絵本などを読んで聞かせること

■中学生については、帰宅後の過ごし方では、「ネット・メール」が前回調査と比較し76.8分増加し、「ゲーム」は71.7分増加、「勉強」は6.9分増加しています。また、「読みたい本がある時はどうしていますか」は電子書籍の利用が前回と比較し27%増加しています。さらに、「本が嫌いな理由」は興味がないが35%増加し、「図書館を利用しない」が14%増加、「学校図書館を利用しない」が23%増加しています。図書館の利用は友達と行く、勉強を目的とした活用が最も多い結果となっています。

■高校生については、帰宅後の過ごし方では、「ネット・メール」が前回調査と比較し27.5分増加し、「ゲーム」は31.2分増加、「勉強」は13.1分減少しています。また、「読みたい本がある時はどうしていますか」は、電子書籍を利用が前回と比較し27%増加しています。さらに、「図書館を利用しない」が10%増加し、「学校図書館を利用しない」が7%増加しています。図書館の利用は一人で、本を借りる目的の活用が最も多い結果となっています。

(3) 課 題（※令和4年度の調査結果より）

■家や図書館で読書をする小学生が特に減少し、ネットやメール、ゲームをする中学生・高校生の利用時間が増加傾向にあることから、読書習慣の定着に向けた取組が必要です。

■朝の読書^{※2}や休み時間を使った読書タイムの実施は全校実施しています。また、調べ学習^{※3}での学校図書館の利用は、小・中学校全て実施しているが、学年が上がるとう利用数が減少し、進んで利用する子どもが増えないなど問題を抱えていることから、学校と図書館とが連携し、子どもの自主的、意欲的な読書活動を支援し、読書好きな児童生徒が増える取組が必要です。

■共稼ぎの増加により、乳幼児期に子どもへの読み聞かせを実施する時間がないことから、保育園・認定こども園・図書館は子どもにとって読みたい本を自由に選び、読書の楽しさを知ることのできる場所であるため、幼少期から読書を楽しいものとして認識し、読書習慣を身につけられる取組と読書の重要性について保護者へ働きかけが必要です。

■図書館や様々な人材と連携した取組を行っている学校は、小学校は増加しているものの、中学校・高校では連携した取組が見られないことから、子どもに関係する関係機関、ボランティア団体等が連携・協力し、多様な経験を有する地域の人材を有効に活用しながら、子どもの読書活動の推進が必要です。

※2 朝の読書：学校で毎朝始業前に児童生徒、教職員が自分で選んだ読みたい本を読む運動

1988年千葉県の高教諭 林 公（はやし ひろし）氏が提唱して実践したのが始まり

※3 調べ学習：子どもが自分自身の力で課題を設定し計画を立てて解決する、自ら学び自ら考える自主的、自発的な学習方法